

スポーツ庁委託事業

『障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への
支援事業・民間企業等への啓発)』

障害者 スポーツ 推進 シンポジウム

「スポーツの力、共生の力」

来年に迫った東京オリンピック・

パラリンピック競技大会（以下、「東京 2020

大会」）。パラリンピック競技だけでなく、障害者スポー

ツ全体への関心が高まっています。東京 2020 大会をき

かけにして、さらに障害者スポーツが普及し、障害者をはじ

め配慮が必要な人たちが、スポーツを通じてより一層社会に参画す

ることが期待されています。

企業にとっても、単に障害者スポーツを支援するだけではなく、
障害者が社会参画しやすい環境づくり、障害者が使いやすい製品づ

くり、サービスの開発などを通じて、認知度を高めるチャンスにも

なり、ひいては従業員のワーク・エンゲージメントの向上、企業価

値の創造にもつながります。

本シンポジウムでは、企業の障害者スポーツへの取組事例を紹介

すると共にパネルディスカッションなどを行います。東京

2020 大会のレガシーや共生社会のあり方、障害者ス

ポーツとのかかわりを考える絶好の機会です。

皆様のご参加をお待ちしています。

主催 株式会社学研プラス

費用 無料

令和2年

日時 3月2日(月) 13:00~17:30

会場

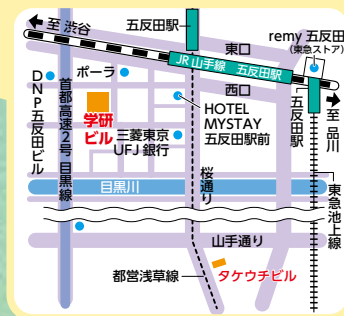
学研ビル3階 大ホール

〒141-8415

東京都品川区西五反田2丁目11-8

最寄り
駅

JR 山手線五反田駅、
東急池上線五反田駅



障害者スポーツシンポジウム進行案

- | | |
|---------------|---|
| 13:00 ~ 13:10 | スポーツ庁挨拶 |
| 13:10 ~ 14:00 | 【シンポジウム—基調講演】
「東京 2020 大会のレガシー（仮）」
講師：中森 邦男（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会） |
| 14:00 ~ 14:30 | 【企業調査結果報告】
・企業の障害者スポーツ支援の事例の紹介
・企業アンケート・ヒアリング調査報告
（企業の障害者スポーツ支援の方向性など） |
| 14:30 ~ 15:10 | 障害者スポーツ支援についての企業からのレポート
倉田秀道（あいおいニッセイ同和損保 経営企画部次長
スポーツ振興担当）
他1社 |
| 15:20 ~ 16:00 | 【障害者スポーツ支援の海外事例】
桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部 スポーツ健康政策学科
教授 田中 暢子 |
| 16:00 ~ 17:20 | パネルディスカッション：
「障害者スポーツの持続的な発展を目指して」
コーディネーター：
公益財団法人身体教育医学研究所長 岡田 真平
パネリスト：
・日本体育大学スポーツマネジメント学部 准教授 横田 匡俊
・公益財団法人鉄道弘済会義肢装具サポートセンター
臼井 二美男
・栗栖 勇人（オイシックス・ラ・大地 株式会社
パラスポーツ支援プロジェクトメンバー）（予定）
・杉内周作（日本身体障がい者水泳連盟理事・アスリート委員長）
（（株）富士通所属） |
| 17:20 ~ 17:30 | 【振り返り、まとめ】
・Web アンケートに回答する。 |
| 17:30 ~ | 【意見交換会】
・Q & A ・登壇者との名刺交換 など |

司会進行：桜美林大学准教授・田中千晶氏

※シンポジウムの内容は変更になる場合があります。
※プログラム監修：武藤 芳照（東京大学名誉教授）

参加ご希望の方は

info@u-mix.co.jp まで

件名に「障害者スポーツシンポジウム申込」とご記入のうえ、メールをお送りください。
詳細内容を返信いたします。

申込先

株式会社学研プラス

次世代教育創造事業部 教育ICT事業室

企画事業課 池田 智志

Tel 03-6431-1413

株式会社ユーミックス 藤田 由美子

Tel 03-3955-5074 Mail info@u-mix.co.jp

問合先

障害者スポーツ シンポジウム

スピーカー プロフィール

●基調講演●

中森 邦男 (なかもり くにお)

現職：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
日本パラリンピック委員会 参事

他の役職：

- ・日本身体障害者水泳連盟 顧問
- ・アジアパラリンピック委員会スポーツ委員会 委員
- ・日本女子体育大学 非常勤講師
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック組織委員会 理事
- ・一般社団法人ススポーツ・コンプライアンス教育振興機構 理事

●国際大会への参加

パラリンピック (夏8回、冬4回参加)、日本選手団団長 2010年バンクーバー大会、
2012年ロンドン大会、アジアパラゲームズ (6回参加)



●司会進行●

田中 千晶 (たなか ちあき)

現職：桜美林大学健康福祉学群 准教授

【略歴】

博士 (体育学)、国立健康・栄養研究所 リサーチ・レジデント等を経て現職、元シンクロナイズドスイミング (現：アーティスティックスイミング) 日本代表選手

専門は発育発達学、運動生理学。幼児から高齢者までを対象にスポーツを含む日常の身体活動量および座位行動の評価法や変動要因に関する研究を実施している。国際機関 Active Healthy Kids Global Alliance および International Surveillance Study of Movement Behaviours in the Early Years における日本チームのリーダーを務める。



●企業からのレポート●

倉田 秀道 (くらた ひでみち)

現職：あいおいニッセイ同和損保経営企画部次長

【略歴】

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修了。

スポーツ振興・障がい者スポーツ支援の指揮を執るとともに、所属するマラソン川内優輝選手をはじめ五輪・パラ選手の育成、マネジメントを担当。

選手指導の経験も豊富で、コーチング、スポーツマネジメント領域に明るい。

2003年に早稲田大学スキー部監督に就任。フルタイム監督として同部を40年ぶりの日本一、通算9回の日本一に導くとともにノルディック複合の渡部暁斗選手 (北野建設) らオリンピック選手を多数輩出。パラリンピックの村岡桃佳選手 (トヨタ自動車) も教え子。日本オリンピック委員会強化委員、全日本スキー連盟クロスカントリー強化委員などを歴任。



●講演：「障害者スポーツ支援の海外事例」●

田中 暢子 (たなか のぶこ)

現職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部
スポーツ政策学科 教授

【略歴】

ラフバラ大学大学院スポーツ・レジャー政策研究科博士課程修了。

専門分野および研究分野は、スポーツ政策学、健康政策学、スポーツ社会学、障害学

障害者スポーツ/インクルーシブスポーツ、健康格差、国際比較などの研究に取り組んでいる。



●パネルディスカッション・コーディネーター●

岡田 真平 (おかだ しんぺい)

現職：公益財団法人身体教育医学研究所長

【略歴】

1999年 東京大学大学院教育学研究科修士課程修了。以降、長野県東御市 (当時、北御牧村) の保健・福祉・医療の総合施設、ケアポートみまきを拠点に地域の健康増進・介護予防・スポーツ振興等に深く関わる。

東御市では、多様な組織が連携した「みんなの健康×スポーツ」実行委員会を組織し、ユニバーサルスポーツの普及・啓発に取り組んでいる。また、市内の標高1750m地点にある「GMOアスリートパーク湯の丸」では、障がい者アスリートの合宿受入も行っている。



●パネルディスカッション・パネリスト●

横田 匡俊 (よこた まさとし)

現職：日本体育大学 スポーツマネジメント学部 准教授

【略歴】

1975年栃木県生まれ。三菱総合研究所 (スポーツ事業リーダー) を経て、2018年4月より現職。三菱総合研究所では、スポーツを通した地域活性化、スタジアム・アリーナ運営計画、トップアスリートのタレント発掘、日本財団パラリンピックサポートセンター機能設計など、スポーツビジネス・スポーツ政策に関する多岐に渡る業務を担当。著書に『オリンピック・レガシー 2020年東京をこう変える!』 (共著、ポプラ社)、『奇跡の3年 2019・2020・2021 ゴールデン・スポーツイヤーズが地方を変える』 (共著、徳間書店) など。



●パネルディスカッション・パネリスト●

臼井 二美男 (うすい ふみお)

現職：公益財団法人鉄道弘済会・義肢装具サポートセンター
義肢装具士

【略歴】

1989年、通常の義足に加え、スポーツ義足の製作も開始。91年、切断障害者の陸上クラブ「スタートラインTokyo」を創設、代表者として切断障害者に義足を装着してのスポーツを指導。やがてクラブメンバーの中から多くのパラアスリートを輩出。2000年のシドニーから、アテネ、北京、ロンドン、リオパラリンピックには日本代表選手のメカニックとして同行する。通常義足でもマニティ義足やリアルコスメチック義足など、これまで誰も作らなかった義足を開発、発表。義足を必要としている人のために日々研究・開発・製作・選手育成に尽力している。



●パネルディスカッション・パネリスト●

杉森 周作 (すぎもり しゅうさく)

現職：

- ・富士通株式会社 スポーツ文化ビジネス推進本部
- ・一般社団法人 日本身体障がい者水泳連盟 理事
- ・アスリート委員会 委員長
- ・技術委員会 テクニカル委員
- ・関東身体障がい者水泳連盟 理事
- ・日本水泳連盟 アスリート委員会 委員 などを歴任

【略歴】

小中学生のとき水泳に没頭。26歳 (2000年) の時に網膜色素変性症と診断される。2001年に障がい者水泳の世界にデビュー。アテネパラリンピック大会では、400m自由形リレー3位をはじめ、400mメドレーリレー4位、100m平泳ぎ4位、100mバタフライ8位と銅メダル1つと3つの入賞を果たした。

2007年に現役を引退。以降、練習会を主宰し、次世代のパラアスリートを目指す選手のコーチを行っている。



●プログラム監修●

武藤 芳照 (むとう よしてる)

現職：東京大学名誉教授

【略歴】

名古屋大学医学部卒業。整形外科医・スポーツ医として五輪水泳チームドクター、国際水泳連盟医事委員等を長年務めた。東京大学教育学部長、同理事、副学長、日体大総合研究所所長等を経て、2018年4月より現職。スポーツ医学、身体教育学の立場から、健全なスポーツの普及・振興や高齢者の転倒予防等に関する教育・研究・実践活動に従事。少林寺拳法連盟顧問、日本学生野球協会理事。

